

令和元年度山都町包括医療センターそよう病院決算の点検・評価について公表します。

本院は、地域における医療の確保と住民の健康増進、福祉の向上に大きな役割を求められるところですが、益々進んでいる高齢化社会の到来、疾病構造の変化、医療技術の高度化・専門化や様々な変革の波にもまれております。また、当年度は新型コロナウイルス感染症の流行により、患者が医療機関の受診を差し控える動きもあり、これからの運営は益々厳しくなることが必至であります。

※業務量について

当年度病院事業の業務量は、入院患者数14,479人(1日平均39.6人)・前年度15,866人(1日平均43.5人)、外来患者数 医科は39,346人(1日平均163.3人)・前年度40,296人(1日平均165.1人)、歯科は3,569人(1日平均13.6人)・前年度3,723人(1日平均13.9人)で、前年度に比べて、入院患者数で1,387人(△8.7%)の減、外来患者数で1,104人(△2.5%)の減となりました。

※収益的収支について

事業収益の医業収益は、当年度829,500千円(前年度851,715千円)で22,215千円(△2.6%)の減となりました。その主な内訳は入院収益18,674千円(△4.5%)の減、外来収益6,835千円(△1.9%)の減でした。医業外収益では、当年度163,181千円(前年度139,035千円)で24,146千円(17.4%)の増となりました。その主な内訳は繰入金8,773千円(11.2%)の増、長期前受金戻入12,430千円(109.1%)の増、訪問看護ステーション収益2,635千円(13.4%)の増でした。特別利益は、過年度損益修正益109千円(前年度1,398千円)でした。その結果、当年度事業収益は、992,790千円(前年度992,149千円)で641千円(0.1%)の増となりました。事業費用の医業費用は、当年度978,918千円(前年度924,873千円)で54,045千円(5.8%)増となりました。その主な内訳は、給与費22,838千円(3.8%)の増、材料費756千円(△0.7%)の減、経費3,856千円(2.7%)の増、減価償却費26,458千円(36.9%)の増でした。医業外費用では、当年度56,866千円(前年度63,670千円)で6,804千円(△10.7%)減となりました。その主な内訳は、雑損失4,816千円(△18.2%)の減、訪問看護ステーション1,327千円(△5.9%)の減でした。特別損失は、過年度損益修正損1,897千円(前年度2,036千円)で、139千円(△6.8%)の減となりました。その結果、当年度の総費用は、1,037,681千円(前年度990,578千円)で47,103千円(4.8%)の増となりました。以上のように、当年度病院事業収益992,790千円に対し、当年度病院事業費用は1,037,681千円で当年度純損失44,891千円となりました。

※資本的収支について

資本的収入は、32,199千円(前年度89,065千円)で56,866千円(△63.9%)の減となりました。その内訳は、補助金38,124千円の減、繰入金18,742千円の減でした。資本的支出は、58,649千円(前年度155,831千円)で、97,182千円(△62.4%)の減でした。その内訳は、企業債償還金2,953千円の減、機械器具購入費95,956千円の減、自動車購入費1,727千円の増でした。なお、資本的収入額に対して不足する額26,450千円は、当年度分消費税資本的収支調整額612千円及び過年度分損益勘定留保資金25,838千円で補てんしました。以上、令和元年度の病院事業の経営状況を数値的に列挙しましたが、事業収益は前年度並みには確保できたものの、働き方改革に伴う人員の確保等により赤字決算となりました。今後も、へき地医療拠点病院及び二次医療施設として良質な医療を提供していくと共に、経営基盤の強化と健全経営の維持に向け努力します。

1. 収支状況

	平成30年度			令和元年度			点 検	評 価
	目標値	実績	達成率	目標値	実績	達成率		
経常収支比率	102.8%	100.2%	97.5%	99.3%	95.8%	96.5%	(経常収益/経常費用)×100 病院が安定した経営を行うための指標であり、総収益と総費用との割合で事業活動の能力を表す指標。	この比率は100%以上であることが望ましく、令和元年度の達成率は96.5%で目標を3.5%下回っている。
医業収支比率	92.4%	92.1%	99.7%	93.9%	84.7%	90.2%	(医業収益/医業費用)×100 医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標であり、医業活動の能力を表す指標。	この指標は経常収支比率同様100%以上であることが望ましく、令和元年度は9.2%目標値を下回っている。
病床利用率	78.9%	76.3%	96.7%	78.9%	69.4%	88.0%	(年延入院患者数/年延病床数)×100 病院の施設が有効に活用されているかどうかを判断する指標。	この指標は高い方が望ましく、令和元年度の達成率は69.4%と目標を9.5%(5.4床/日)下回っている。
職員給与費比率	69.0%	70.0%	101.4%	67.7%	74.6%	110.2%	(職員給与費/医業収益)×100 病院において職員給与費は最も大きなウェイトを占める医業費用であり、医業収益と人件費の割合で職員数が適正かを判断する指標	この指標は低い方が望ましく、令和元年度の達成率は6.9%上回り、前年度対比では4.6%アップ。
職員数	65人	68人	3人	67人	70人	3人		